

《履修上の留意事項》遠隔授業のみ実施

《担当者名》○鈴木英樹 長谷川純子

【概 要】

生活環境支援の基本的理念と関連法規を理解し、地域環境も含めた生活環境整備における理学療法士の役割を把握する。また、人間の活動と環境の相互作用を理解し、高齢者や障がい者の生活支援のための生活環境評価や住環境整備の方法について具体的理解を深める。さらに、様々な疾病や障害により生ずる生活障害の軽減へ向けた住環境整備の具体的方策について、その立案および提案方法を実践的に習得する。

【学習目標】

【一般目標】地域で生活する高齢者や障害者が、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを継続する支援ができるようになるため、基本的な生活環境整備を理解する。

【行動目標】

基本的理念、関連制度、具体的支援方法について説明できる。

1. ICFにおける「環境要因」の位置づけや具体的内容について説明することができる。
2. 我が国の生活様式の変遷や課題について説明することができる。
3. 一般的なバリアフリー設計基準について説明することができる。
4. 加齢に伴う心身機能の低下、或いは疾病や障がいの状況を踏まえた環境整備について最低限の提案をすることができる。
5. 障がい者が地域コミュニティで生活して行く上での環境的課題について説明することができる。

【学習内容】

回	テーマ	授業内容および学習課題	担当者
1	ガイダンス 生活環境整備の意義	・授業全体の内容や日程の概説 ・なぜ生活環境論を学ぶのか ・理学療法士が生活環境整備において果たす役割	長谷川純子
2	生活環境整備の共通基本技術	・家屋内の場所別 生活環境整備の方法 ・福祉用具の活用	長谷川純子
3) 4	住環境整備の例	・障害別の住環境整備例	長谷川純子
5	住環境整備の例	・転倒骨折予防のための生活環境評価と整備	鈴木英樹
6	生活環境整備に係る法令と理念	・バリアフリーとユニバーサルデザイン ・これらに関する我が国の法整備の現状	鈴木英樹
7) 8	障がい者が地域コミュニティで生活して行く上での環境的課題	・コミュニティが抱える環境的課題について 特別講師：石田亨平	鈴木英樹

【評価方法】

定期試験（オンライン） 90%

講義中の課題 10%

【備 考】

教科書：東京商工会議所 編 「福祉住環境コーディネーター検定 2級公式テキスト改訂第4版」 2016年

参考書：千住秀明 監修 「理学療法学テキスト 生活環境論」 神陵文庫 2006年

東京商工会議所 編 「福祉住環境コーディネーター検定 1級公式テキスト改訂第4版」 2016年

東京商工会議所 編 「福祉住環境コーディネーター検定 3級公式テキスト改訂第4版」 2016年

伊藤利之他 編 「新版日常生活活動（ADL）～評価と支援の実際」 医歯薬出版 2010年

NPO法人NPO推進北海道会議 著 「えきペディア地下鉄バリアフリーマップ札幌」 2014年

【学習の準備】

我々の身の回りにある生活環境、さらには街の様子など、様々な周辺環境に興味関心を持って講義に臨むこと。
予習は、配布した授業資料のなかから次回の授業範囲を読んでおくこと（80分）。

復習は、教科書やプリントを活用し学習を深めること（80分）。

【ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）との関連】

（DP3）医学の進歩によって救命ができるようになり、また平均余命も伸びてきました。これからは、健康を損なっている人、病気やけがで心身に障がいを持っている人たちが地域でその人らしい生活を営めるように、保健・医療・福祉の各分野で活躍する専門職種が連携しあって、地域全体で支援していくことが重要です。その視点を持って理学療法の専門的な知識と技術を適切に提供できる能力を身につけます。

【実務経験】

鈴木英樹（理学療法士、専門理学療法士、介護支援専門員）
長谷川純子（理学療法士、福祉住環境コーディネーター1級）

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関や訪問リハビリテーション業務を通じて経験した高齢者や障がいを有する方々の生活環境について説明を行うとともに、それらに対する働きかけが当事者の生活に及ぼす影響についても説明を行い、理学療法士として当該分野に関わる際の基本的視点と知識技術について理解する。